

優 秀 賞

繋ぐー青く美しい未来に向けて

筑西市立下館中学校

三年 藤 代 かれん

二〇一九年十月十二日、その日は台風十九号の影響で雨が降り続いた。テレビで報道されるのは台風による大雨のことばかり。私はこんな経験をしたのは生まれて初めてだったので不安でしかたなかった。筑西市内では大規模な災害は起こらなかったものの、県内では川の氾濫や浸水被害などが起こった。いつもは穏やかに流れ、四季折々の風景を見られる勤行川も堤防ギリギリまで水が押し寄せ、大雨・洪水警報及び避難勧告も発令された。また、断水も予想されたため、ペットボトルの水を買うなどして備えていたが、本当になつたらと考えると焦りが出てきた。この台風で水の脅威と水のありがたさを同時に感じた瞬間だった。

水のありがたさはトイレやお風呂など身近なところで感じられている。生活するうえで欠かせない水。その水には使う場面によってメッセージが隠れていると思う。例えば、朝起きて顔を洗うときには「今日も一日頑張れ！」や「良い一日でありますように」だったり、お風呂で温まっているときには「今日もお疲れさま」など私たちは水とメッセージを相互して水との共存をしている。改めて考えると、私たちは水の恩恵を受けているが世界ではまだまだ水問題は課題を抱えている。

新聞を見ているとSDGsという言葉を見つけた。SDGsは二〇一五年の国連サミットで定められ、持続可能な開発目標を十七個掲げている。その中の一つである「安全な水とトイレを世界中に」は二〇三〇年までにすべての人が安全な水とトイレを利用できる世の中であることを目指している。日本では簡単に水を飲むことができるが世界の人たちは水不足を抱え、トイレすら普及していない国だっている。その人たちを救うためにも日本の水技術を伝えて生かして、きれいな水とトイレを届けられたらと思う。

だが、この取り組みを知らない日本国民はたくさんいるのではないかと思う。私もその一人であった。これらを多くの人に浸透していかないと二〇三〇年までには目標は達成できない。そのために誰もができる取り組みをしていくべきではないかと考える。

まず、学校や地域の取り組みの一環として「水プロジェクト」を行うことはどうだろう。講演会や水に関する体験学習など参加型にすることで水について学べるのではないかと思う。

次に、三月二十二日の世界水の日を浸透させたいと思う。世界水の日是世界各国で水の大切さを知ってもらうために会議や展覧会などが開催され、青いものを身につけることでより多くの人に水の問題について関心を持ってもらう「ブルー・フォー・ウォーター」キャンペーンを行っている。このような情報をみんなに知ってもらい、小さなことから始められたらと思う。やがてこの小さな積み重ねが大きな実となって世界に広がってくれることを願う。

それにあたり、水をはじめとする環境問題について学ぶことはもちろんだが、節水や汚れた水を流さ

ないなど自分にできることを引き続き実践していきたいと思う。自分たちの未来だからこそ自分たちでこの地球を守っていきたい。未来に繋がる一歩が今から始まっている。